琉球語関係書

１．奄美

1. 『奄美大島のことば―分布から歴史へ―』　柴田武編　秋山書店　昭和59
2. 『奄美学の水脈』（奄美沖縄ライブラリー２）　南海日日新聞社編　ロマン書房本店発行　1993
3. 『奄美諸島方言の言語地理学的研究―徳之島･沖永良部島に関する言語地理学的調査の報告』(沖縄言語研究センター資料88) 沖縄言語研究センター編 沖縄言語研究センター発行 1990
4. 『奄美徳之島』　柴田武他編　秋山書店　1977
5. 『奄美方言〜カナ文字での書き方〜』　岡村隆博著　南方新社　2007
6. 『奄美方言、その音韻と文法』　寺師忠夫著　根元書房　1985
7. 『奄美方言入門―奄美の各市町村別方言集』　浜田敬介編著　南方新社　2009
8. 『奄美方言の研究（１－４）』　寺師忠夫　寺師忠夫著　昭和31-2
9. 『沖永良部方言調査報告―言語地理学的研究―』　沖縄国際大学高橋ゼミグループ編　沖縄言語研究センター　（1984）　＊沖縄言語研究センター資料(No 50 1984-6-10)
10. 『喜界島方言集』（全国方言集一）　岩倉市郎著　柳田國男編　中央公論社　昭和16
11. 『言語学の方法』　服部四郎著　岩波書店　1960（7刷：1970年）　＊「奄美大島諸鈍方言の動詞・形容詞終止形の意義素」
12. 『島のことば　沖永良部島』　甲東哲著　三笠出版（鹿児島市）　昭和62（再版：昭和63年）
13. 『徳之島のことばー分布から歴史へ』　柴田武ほか編　秋山書店　1977
14. 『南島方言与論語彙』　山田実著　武蔵野書院　昭和42
15. 『日本母語の探求―日琉語の比較―』（笠間選書5）　山田実著　笠間書院　昭和48
16. 『歌・言葉・心のシンフォニー「与論方言集」』　菊千代著　与論民俗村発行（与論町）　昭和60）
17. 『奄美与論方言の体言の語法』（南島文化叢書2）　山田実著　第一書房　昭和56
18. 『琉球語動詞の形態論的構造』　山田実著　国書刊行会　昭和54　＊与論方言

２．沖縄（琉球全般をふくむ）

1. 『沖縄伊江島方言辞典』　生塩睦子著　沖縄学研究所編　伊江村教育委員会発行　1999
2. 『沖縄伊江島方言辞典・索引編』　生塩睦子著　沖縄学研究所編　伊江村教育委員会発行　1999
3. 『伊波普猷全集　第四巻』　伊波普猷著　平凡社　1974（2刷：1993）　＊『南島方言史攷』と『沖縄考』（解題は比嘉実（資料収集）と外間守善（整理・執筆））
4. 『岩波講座　日本語１１　方言』　柴田武ほか著　岩波書店　1977　＊「５　沖縄の言語とその歴史」（外間守善）
5. 『ウチナー口から大和言葉へ』　妹尾章仁著　那覇出版社　平成10　\2000
6. 『伝統文化の真髄　美しい沖縄の方言ことば①』　船津好明著　技興社発行　昭和63
7. 『オーウェン・ラブレスの沖縄語』　オーウェン・ラブレス著　ニライ社　＊原本『The Okinawan Language』（by:Owen　Loveless）
8. 『王堂チェンバレンーその琉球研究の記録』　山口栄鉄編訳　琉球文化社　1976　＊「１.琉球語序説」（「A Preliminary Notice of the Luchuan Language」,JAI XXVⅠ,1897 47-59pの訳）と「2.日琉語の比較」（A Comparison of the Japanese and Luchuan Languages」, TASJ XXⅢ, 1895 xxxi-xliの訳）
9. 『沖縄おもしろ方言事典』　沖縄雑学倶楽部編　創光出版（那覇市）　1989（5版：1992）　＊「主として現代の沖縄人が共通して使う、日常生活の中に生きている方言の中から約千三百語を選ん」だもの（凡例より）
10. 『沖縄学の黎明ー伊波普猷生誕百年記念誌』 伊波普猷生誕百年記念会編　沖縄文化協会　1976　＊「琉球方言と本土方言」（服部四郎）「伊波普猷における言語論について」（屋比久浩）など
11. 『沖縄久高島における言語・文化の総合的研究　〈中間報告〉』　法政大学久高島調査委員（編）　法政大学沖縄文化研究所（発行）　昭和58
12. 『沖縄久高島調査報告書　「沖縄久高島の言語・文化の総合的研究」報告書』　法政大学沖縄文化研究所久高島調査委員会編　法政大学沖縄文化研究所　昭和60
13. 『沖縄言語と共同体　ウチ社会の意識とことば』　内間直仁著　社会評論社　1990
14. 『沖縄語音韻の歴史的研究』　 多和田眞一郎　溪水社　2010
15. 『沖縄語の世界』　中松竹雄著　友古堂書店（那覇市）　昭和55　＊コザ市の言語調査、黒島の古謡（八重山）
16. 『オキナワ語会話集 日本語・英語対照』　渡由喜子・久手堅裕子・久手堅公子訳　泰流社　1995
17. 『沖縄古語の深層』　間宮厚司著　森話社　2008
18. 『沖繩語辞典』（国立国語研究所資料集5）　国立国語研究所編　大蔵省印刷局　昭和51　＊首里方言（首里出身の島袋盛敏氏の稿本などをもとにしたもの）
19. 『沖縄ことばの散歩道』（おきなわ文庫）　池宮正治著　ひるぎ社　新初版1997
20. 『沖縄語の歴史』　中松竹雄著　沖縄言語文化研究所発行　2000　＊おもろさうしの助詞・琉球官話集の語彙研究。英文書名：History of the Okinawan Language
21. 『沖縄對話』　沖縄縣學務課編纂　明治15年10月(改正再版)　＊『激動の沖縄百年』(新聞、雑誌、教科書復刻版）　月刊沖縄社　1981
22. 『沖縄渡名喜島における言語・文化の総合的研究〈中間報告〉』　渡名喜島調査委員会(代表山本弘文：発行者）　法政大学沖縄文化研究所（発行所）　昭和62
23. 『沖縄の言語史』（日本文学史研究叢書）　外間守善著　法制大学出版局　1971
24. 『沖縄の言葉』（日本語の世界9）　外間守善著　中央公論社　昭和56
25. 『沖縄の方言札　さまよえる沖縄の言葉ウチナーグチをめぐる論考』　井谷泰彦著　ボーダーインク（那覇市）　2006
26. 『沖縄方言集　ウチナーグチ』　沖縄トラベルサービス発行－　＊表紙には「わかりやすい沖縄言葉（ウチナーグチ）　沖縄方言　最新版ウチナーグチ」の文あり。共通語・ウチナーグチ対訳語彙集（一部ローマ字つづりも）
27. 『沖縄文化　沖繩文化協会創設４０周年記念誌』　『沖縄文化』編集所遍　沖縄県立芸術大学加治工真市研究室　1989
28. 『沖縄文化論叢　第4巻　文学・芸能編』　外間守善編　平凡社　1971
29. 『沖縄文化論叢　第5巻　言語編』　外間守善編　平凡社　1972
30. 『沖縄本島国頭方言の調査報告』　内間直仁編　琉球大学　平15
31. 『おもろ語辞書　沖縄の古辞書混効験集』　外間守善著　角川書店　1972
32. 『おもろそうし対語索引』　浜田泰子編　ロマン書房発行（宜野湾市）　1988
33. 『おもろそうしの言語』　間宮厚司著　笠間書院　2005
34. 『音声研究』（4巻1号　特集 琉球方言の音声）　日本音声学会編　2000,4
35. 『九州方言・南島方言の研究』　上村孝二著　秋山書店　1998
36. 『金城朝永全集（上巻）　言語・文学篇』　金城朝永著　沖縄タイムス社(発行)　1974
37. 『クリフォード琉球語彙』（勉誠社文庫71）　Ｈ・Ｊ・クリフォード著　劉守華編　勉誠社　1979　＊「A Vocabulary of The Loo-Choo Language」（by H.J.Clifford）の複製
38. 『言語学大辞典セレクション　日本列島の言語』　亀井孝・河野六郎・千野栄一編著　三省堂　1997　＊「琉球列島の言語」（上村幸雄）
39. 『講座方言学　１０　―沖縄・奄美の方言―』　中本正智ほか著　国書刊行会　昭和59
40. 『ことばの研究』（国立国語研究所論集１）　国立国語研究所(発行)　昭和34　＊「琉球諸方言における「1・2音節名詞」のアクセントの概観」
41. 『古琉球語で解明する邪馬台国と大和』　由良哲次著　学生社　1982　\1800
42. 『古琉球語で解明する邪馬台国と大和』　由良哲次著　田村書店　昭和57　＊付録１　バジル・ホール・チェンバレン　琉球語文典および辞典にかんする試論（一八九五年）(『Essay in Aid of a Grammar and Dictionary of the Luchuan Language,1895』の訳.。「付記ー琉球語の光に照らして見た日本語動詞活用の起源について」と「琉球語会話例解ー付、日英対訳」は省略されている）。付録２には「バジル・ホール・チェンバレン小伝」)
43. 『琉球古語辞典混効験集の研究』（南島文化叢書17）　池宮正治著　第一書房発行　1995
44. 『実践うちなあぐち教本』　　南謡出版（糸満市）　1999　＊現代ウチナーグチ文法書
45. 『新版・沖縄語の文法』　中松竹雄著　げんけん出版（那覇市）　1973（2版：1999）
46. 『世界言語慨説（下巻）』　市河三喜ほか編　研究社　昭和30（6刷：昭和46）　＊附、琉球語(金城朝永・服部四郎：309-336p)
47. 『世界につなぐ沖縄研究』　復帰25周年記念　第3回沖縄研究国際シンポジウム沖縄・シドニー大会　同実行委員会・沖縄文化協会編　同会発行　2001
48. 『全国方言辞典　〔１〕―県別方言の特色』（角川小辞典33）　平山輝男編著　角川書店　昭和58　＊名瀬市方言（奄美）・本部町方言（沖縄）・平良市方言（宮古）・竹富町方言（八重山）
49. 『叢書　わが沖縄(３巻　起源論争)』　谷川健一編　木耳社　昭46　＊琉球の言語と民族の起源
50. 『単語のリズムアクセント的構造の分析方法について―今帰仁与那嶺方言を例として―』　上村幸雄著　沖縄言語研究センター　1983　＊沖縄言語研究センター資料(No 39 1983-6-12)
51. 『チェンバレン日琉語比較文典』　山口栄鉄編訳　琉球文化社　1976
52. 『地名を歩く』（くばのはゆブックス１）　南島地名研究センター編著　ボーダーインク発行（那覇）　1991
53. 追悼・仲宗根政善　沖縄言語研究センター　1998
54. 『那覇方言概説』　金城朝永著　三省堂　昭和19
55. 『南島方言資料』　東條操編　刀江書院　昭和44（新版：初版は大正12年）
56. 『南島方言の記述的研究』　中松竹雄　根元書房　昭51
57. 『南島論叢』　伊波普献先生記念論文集編纂委員会　金城唯人（発行人）　昭45（再版）　＊昭和12年（沖縄日報社刊）
58. 『沖縄語ミニ辞典日常会話のウチナーグチ６５００　沖縄語ミニ辞典』　玉城雅巳著　南風社（那覇市）　平成14（2刷：平成16）
59. 『日本語系統論のみち』（亀井孝論文集２）　亀井孝著　吉川弘文館　昭和48（3刷：平成4）　＊「琉球方言の史的地位」「ティダの語源」
60. 『日本語研究』　Ｅ．Ｄ．ポリワーノフ著　村山七郎編訳　弘文堂　昭和51　＊「10.　日本語, 琉球語音声比較概観　1914年」
61. 『日本語の系統』　服部四郎著　岩波書店　昭和34年（6刷：昭和44年）　＊琉球語に関する論考多し
62. 『日本語の原景　日本列島の言語学』（金鶏叢書3）　中本正智著　力富書房　1988（6刷）
63. 『日本語の比較研究』　村山七郎著　三一書房　1995　＊第Ⅱ章　琉球語
64. 『日本東洋文化論集』（琉球大学法文学部紀要）　第10号　琉球大学法文学部編　琉球大学法文学部　2004.3
65. 『日本列島言語史の研究』　中本正智著　大修館書店　1990
66. 『服部四郎　沖縄調査日記』　服部旦編　汲古書院　2008
67. 『ひとことウチナーグチ』　沖縄文化社編　沖縄文化社（那覇市）　2001（5刷：2003）
68. 『方言学概説（訂正増補版）　琉球の方言』　国語学会編　武蔵野書院　1968（訂正増補版）
69. 『方言学概説（増補改訂版）　琉球の方言』　国語学会「方言学概説」編集委員会編　武蔵野書院　昭和37（4版：昭和52年）
70. 『方言学講座　第四巻』　東條操監修　東京堂　昭和36（昭和37版）　＊「九州・琉球方言」（第三章「方言の実態と共通語化の問題点」、第四章「学校における方言と共通語教育」）方言学論叢１　藤原与一先生古稀記念論集　同論集刊行委員会編　三省堂　1981
71. 『方言学論叢　Ⅰ―方言研究の推進―』（藤原与一先生古稀記念論集）　同論集刊行委員会編　三省堂　1981　＊「沖縄平良方言の音韻体系」（柴田武）
72. 『方言と標準語ー日本語方言学概説ー』　大石初太郎・上村幸雄編　筑摩書房　昭和50　＊「第三部　各地の方言　九　琉球の方言」（外間守善）
73. 『方言の研究』　東條操著　刀江書院　昭和24　＊「南島方言の音韻現象」
74. 『めざせ！沖縄語ウチナーグチの達人』 新垣光勇監修　郷土出版（中頭郡西原町）　平成16
75. 『ユーカラ・おもろそうし』 村崎恭子・池宮正治・吉本隆明　新潮社（新潮古典文学アルバム）　1992
76. 『琉漢対音與明代官話音研究』　丁鋒著　中國社会科学出版社　1995
77. 『琉球館譯語　本文と索引』（古典刊行会叢書２）　大友信一・木村晟・山内潤三編緝　古典刊行会企画　小林印刷株式会社出版部　昭和53
78. 『琉球言語地図　第１集』　中松竹雄編著　（財）九州大学出版会　昭和54（改訂版：昭和57）　＊沖縄市の言語地図
79. 『琉球語彙史の研究』　中本正智著　三一書房　1983
80. 『琉球ことばの科学―情報時代の琉球語探検―』　高良富夫　琉球新報社　2016
81. 『琉球語史研究』　石崎博志著　好文出版　2015
82. 『琉球語の秘密』　村山七郎著　筑摩書房　1981.9a
83. 『琉球語の文法と辞典　日琉語比較の試み』　バジル・ホール・チェンバレン著　山口栄鉄編訳・解説　琉球新報社　2005　＊『Essay in Aid of a Grammar and Dictionary of the Luchuan Language,1895』の完訳版。旧訳の『チェンバレン　日琉語比較文典』（山口栄鉄編訳　1976）では「文法の部」のみの訳。由良哲次氏の訳は『古琉球語で解明する邪馬台国と大和』
84. 『琉球語は古代日本語のタイムカプセル』　具志堅敏行著　那覇出版社　2007
85. 『琉球語便覧　附琉語解釈』　伊波普猷監修　琉球史料復刻頒布会　1969(復刻：初版（1916：糖業研究会発行）　＊英語書名：A Hand-Book of the Luchuan Language for the use of tourists and residents:Being a Guide to Conversations in the Standard Luchuan,to whichi is added 琉語解釋 written by Giwan Chōho the last Stateman of old Luchu
86. 『琉球諸語の復興』（沖縄大学地域研究所叢書） 沖縄大学地域研究所編 芙蓉書房　2013
87. 『地域語の生態シリーズ琉球で生まれた共通語―琉球』　永田高志著　おうふう　1996
88. 『琉球列島の言語と文化　その記録と継承』 田窪行則編 くろしお出版　2013
89. 『琉球の言語と文化　仲宗根政善先生古稀記念』　仲宗根政善先生古稀記念編集　論集刊行委員会(発行)　1982
90. 『琉球のことばの書き方　琉球諸語統一的表記法』　小川晋史編　くろしお出版　2015
91. 『琉球の歴史と文化：『おもろさうし』の世界』（角川選書）　波照間永吉編　角川学芸出版　2007
92. 『琉球方言音韻の研究』　中本正智著　法政大学出版局　1976
93. 『琉球方言辞典』　中松竹雄著　那覇出版社　昭和62
94. 『琉球方言の研究』　仲宗根政善著　新泉社　1987
95. 『琉球方言の古層』　名嘉真三成著　第一書房　平4
96. 『琉球文学論』(タイムス選書２)　池宮正治　沖縄タイムス社　1976
97. 『琉球文学論の方法』　池宮正治　三一書房　1982
98. 『琉球列島における音声の収集と研究Ⅰ　沖縄言語研究センター報告 １』 　沖縄言語研究センター編　沖縄言語研究センター発行　1992
99. 『琉球列島における音声の収集と研究Ⅱ　沖縄言語研究センター報告 2』 　沖縄言語研究センター編　沖縄言語研究センター発行　1993
100. 『琉書探求』　仲程昌徳著　新泉社　1990
101. 『The Okinawan Language』　by:Owen　Loveless　ニライ社（那覇市）　2001　＊『The Okinawan Language(A Synchronic Description)』（by:Owen Loveless　A dissertation submitted in partial fulfillment of the requirements for the degree of Doctor of Philosophy in the University of Michigan 1963）の復刻版。日本語書名は『オーウェン・ラブレスの沖縄語』
102. 『わかりやすい沖縄ことば（ウチナーグチ口）』　沖縄トラベルサービス編　沖縄トラベルサービス

３．宮古

1. 『沖縄宮古ことわざ全集　付録：やさしい方言』　吉村玄得著　吉村玄得（浦添市）　昭和49
2. 『宮古島方言マガジン傑作選　くまから・かまから』　くまから・かまからライターズ編著　（有）ボーダーインク　2006
3. 『平成衝口発　上代音韻のミステリー宮古島方言は上代音韻の原形である　成衝口発』　砂川惠伸　新泉社　2010
4. 『多良間島の方言　琉球方言緊急調査第３集』（沖縄県文化財調査報告書第１２集）　沖縄県教育庁文化課編　沖縄県教育委員会　昭53
5. 『多良間方言の動詞の問題点』（多良間島調査報告書１－地域研究シリーズ）　高橋俊三　沖縄国際大学南島文化研究所　1993
6. 『月と不死』（東洋文庫185）　N.ネフスキー　岡正雄編　平凡社　1971
7. 『完本　天の蛇　ニコライ・ネフスキーの生涯』　加藤九祚　川で書房新社　2011
8. 『藤原与一先生古稀記念論集　方言学論叢　Ⅰ―方言研究の推進―』　藤原与一先生古稀御健寿祝賀論集刊行委員会編　三省堂　1981　＊沖縄平良方言の音韻体系
9. 『方言から考える　難解・未詳上代語解読にも役立つ　西原（宮古・池間系）方言　～その古代性とルーツ』　大田義弘著　新報出版（那覇市）　2001
10. 『宮古諸島学術調査研究報告（言語・文学編）』　琉球大学沖縄文化研究所編　琉球大学沖縄文化研究所　196
11. 『宮古スマフツ辞典』　与那覇ユヌス編　-　2003　あり
　＊背表紙書名：ミャーク方言辞典（「スマフツ」は方言のこと）
12. 宮古方言散歩路（平良的表現）　奥平博尚　1996　－
13. 『琉球方言考７　先島〔宮古・八重山他〕』（日本列島方言叢書34）　井上史雄他編　ゆまに書房
14. 『琉球宮古諸方言の音韻　琉球宮古方言の音声資料の収集・研究』 　狩俣繁久　狩俣繁久（琉球大学法文学部国際言語学科）発行　1993.3　＊文部省科学研究費　基盤研究(C)研究成果報告書　研究課題「琉球宮古方言の音声の収集・研究」
15. 琉球列島の言語と文化　その記録と継承　田窪行則編　くろしお出版　2013

八重山

1. 『石垣方言語彙一覧（「環太平洋の言語」成果報告書Ａ4-017』　宮城信勇・加治工真市・波照間永吉・西岡敏編　大阪学院大学情報学部刊行　2002　＊文部科学省特定領域研究　『環太平洋の「消滅に瀕した言語」にかんする緊急調査研究』。英文書名（The Lexical List of Ishigaki Dialect）。『石垣方言辞典』（全２巻：宮城信勇著　沖縄タイムス社　2003）の研究者向けのコンパクトな語彙集として編集しなおされたもの
2. 『ことばの研究』（国立国語研究所論集１）　国立国語研究所(発行)　昭和34　＊「琉球・与那国方言の音韻」
3. 『続八重山方言の素姓』　宮良泰平著　宮良作（私刊）　昭54
4. 『日本語論究 1 (言語学とその周辺)』　田島毓堂・丹羽一弥編　和泉書院　1992　＊波照間方言の音韻
5. 『宮良當壯全集　７ 採訪南島語彙稿』　宮良當壯著　第一書房　昭55
6. 『宮良當壯全集　８ 八重山語彙甲篇』　宮良當壯著　第一書房　昭55
7. 『宮良當壯全集　８ 八重山語彙乙篇』　宮良當壯著　第一書房　昭56
8. 『宮良當壯全集　9 琉球諸島言語の国語学的研究』　宮良當壯著　第一書房　昭57
9. 『八重山の社会と文化』　宮良高弘編　木耳社　昭和48　＊「言語―八重山方言について」
10. 『与那国ことば辞典』　池間苗著　池間龍一・池間龍三編集　池間龍一（？）　1998
11. 『琉球諸語の復興』（沖縄大学地域研究所叢書）　沖縄大学地域研究所編　芙蓉書房出版　2013
12. 『琉球竹富島の方言』　国学院大学日本文化研究所編　国学院大学日本文化研究所　1990
13. 『琉球八重山方言の動詞の研究―石垣方言の動詞のアスペクトとテンス（中間報告）』　鈴木重幸代表　-　平成13　＊文部省科学研究費補助金（基盤研究（Ｃ）（２）　平成１１年度～１２年度研究成果報告書　研究課題「琉球八重山方言の動詞の研究」）

５．本土方言（一部のみ）

1. 『「かごしま語」の世界』（かごしま文庫②）　牛留致義著　春苑堂出版（鹿児島市）　平成3年（3刷：平成4年）
2. 『ケセン語入門』　山浦玄嗣著　共和企画センター（大船渡市）　昭和61　＊宮城県気仙沼方言を自学するためのローマ字による方言文法書。独創的な音便記号や不読文字あり。
3. 『ことばの研究』（国立国語研究所論集１）　国立国語研究所　昭和34　＊「八丈島方言の語法」
4. 『全国アホ・バカ分布考　はるかなる言葉の旅路』　松本修著　太田出版　1993　＊第３章　①「フリムン」は琉球の愛の言葉
5. 『種子島語のゆたかな世界』　植村雄太朗著　南方新社　2009
6. 『奈良時代東国方言の研究』　福田良輔著　風間書房　昭和40（3版：昭和63）
7. 『日本の言語学　第６巻　方言』　柴田武・加藤正信・徳川宗賢編　大修館書店　1978　＊「琉球方言の史的位置」「沖縄の言語史」
8. 『八丈島の言語調査』　国立国語研究所　昭和25
9. 『ラーフル、取ってぇ！　～鹿児島弁はどこへ行った？～』（ＴＪカゴシマ臨時増刊）　長谷尚美・森美保・野口拓男・岩川寿美著　斯文堂（株）出版事業部（鹿児島市）　2001

琉球（雑誌）

『沖縄言語研究センター』（会報第6号）　沖縄言語研究センター編集・発行（宜野湾市）　1984.6

『沖縄文化』　沖縄文化編集所　沖縄文化協会　1986.3(22-2)　＊宮古特集号

『沖縄文化』　沖縄文化編集所　沖縄文化協会　1992.3(27-2)　＊鹿児島県大島郡瀬戸内町の諸鈍方言のフォネームについての覚書

『沖縄文化研究　６』　法政大学沖縄文化研究所編　法政大学沖縄文化研究所　1979

『沖縄文化研究　11（沖縄方言特集）』　　法政大学沖縄文化研究所編　法政大学沖縄文化研究所　1985.3

『沖縄文化研究　22』　　法政大学沖縄文化研究所編　法政大学沖縄文化研究所　1996　＊仲宗根政善先生追悼

『沖縄方言研究　8（与那国方言調査報告Ⅲ）』　沖縄国際大学文学部国文学科高橋ゼミナール　1986

『地球研言語記述論集２』　大西正幸・稲垣和也編　綜合地球環境学研究所　2010　＊伊良部島方言における述語部分の焦点化について

『地球研言語記述論集３』　大西正幸・稲垣和也編　綜合地球環境学研究所　2011　＊琉球語喜界島上嘉鉄方言の談話資料

『国語国文学 343号（32-3）』　京都大学国語国文学研究室編　中央図書出版社　昭38　＊琉球語動詞の通時的考察

『國語方言學講座』（『國語科学講座　Ⅷ』　琉球の方言　伊波普猷　明治書院　昭和8

『伝統と現代』(45号：1977.5月号)　特集：ことばを考える

『琉球の方言』　法政大学沖縄文化研究所

『八重山石垣島川平方言』　1975

『奄美大島宇検村湯湾方言』　1976

『宮古大神島』　1977

『4　奄美喜界島志戸桶』　1978

『6　久米島鳥島の方言』　1980

『7　奄美沖永良部島の方言』　1982

『10』　1985

『11　八重山・与那国島』　1986

『12』　1987

『13』　1988

『20　服部四郎博士追悼号』　1995

『琉大方言』　琉球方言研究クラブ編・発行（中頭郡西原町）

５号　1990　＊『阿嘉島方言の音韻体系』

19号　2005.1　＊『伊良部島字伊良部方言の音韻体系』

20号　2005.10　＊『伊良部島字伊良部方言の音韻体系』

『琉大文理学部紀要　第七号(別刷)』　嘉味田宗栄　1963.5　＊比較考察の一観点ー首里方言を中心にー

『琉大文理学部紀要　人文篇第八号(別刷)』　大城健　1964.6　＊琉球諸方言の語彙統計学的（言語年代学的）研究　The Lexicostatistical Study of Ryūkyūan Dialects

『多良間方言の動詞の問題点(別刷)』　高橋俊三編　-　高橋俊三　199- ＊「多良間島調査報告書（１）−地域研究シリーズＮｏ．１９−」抜刷　沖縄国際大学南島文化研究所